BTC 第１０号 2021年11月

後援会だより

イムマヌエル
聖宣神学院後援会
http://btc.jpn.com/

神に信頼して待ち望む
～最善をなさる神～

副会長　池田光重
（千葉教会）

「民よ、どんな時にも神に信頼せよ。神はわれらの避け所である」（詩篇62篇8節）

十月は教団創立記念の月であり、「インマヌエルの六十年」と七十年記念誌「聖と宣の足跡」を開いてみました。その中で聖宣神学院に関わる箇所を見ますと聖宣神学院を開校したのは、「救われた人々が次々と献身してきたので、彼らを訓練する必要が起き・・」と記されておりました。正規生十五名、聴講生五名の二十名でスタートしたとあります。これまでの七十年余りの間に五百名を超える牧師伝道者の器方が学びと訓練を経て教会に遣わされてまいりました。そして今、当教団出身の神学生は在籍しておりませんが恵みによって数名の他教団出身の神学生が在籍し学びと訓練の中におります。

かつてのキャンパスの賑わいを知る方々にとっては寂しい限りではないかと想像しますが、学びの環境はかつてとは比べ物にならないほど改善されているように思います。私が十数年前に信徒伝道者スクーリングに参加した時と比べても環境は格段に良くなっております。

献身者が興されていないことに不安や危機感を覚える方々が多くおられるのではないかと思います。無牧の教会や兼牧の教会が増えることに恐れすら感じる方もおられると思いますが、そもそも新しく救われる人が少ないことにこそ危機感を覚えたいと思います。

献身は牧師伝道者を志すことだけではなく主の召しに応じることだと理解しております。「救われた人々」一人一人召しの内容は違っているはずであり、聖宣神学院の学びと訓練も多岐にわたった内容であることが求められており新しいしいカリキュラムが取り入れられているのも、その現われの一つだと思っております。

ダビデは冒頭の詩篇62篇の中で、どんな時にも神に信頼し、心を注ぎだして祈ることで神は最も良い結果を示して下さるということを教えております。神に信頼するとは、自分の願ったような結果にならなかったとしても、神のなさったことだと感謝して受け止めることです。そしてそれが最善であったということが後に理解できることが多々あります。

現在の状況において、まずは神ご自身に信頼し結果を待ち望むことが第一であると教えられます。そして今自分に出来ることの一つ一つ、それが小さな事であっても精一杯応えていくことが求められているのではないでしょうか。

私たちの思いや願いを越えて、最善の結果を用意なさる神に、栄光を帰する日が来ることを待ち望み続けたく思います。

◆日々お祈りください

①献身に導かれる方が与えられるように。特に、若い方々がさらに加えられるように。
②神学生の学びと訓練が祝されるように。
③教師、職員、スタッフが恵みによって用いられるように。
④ＢＴＣキャンパスのメンテナンス工事のために。
⑤今後のキャンパス活用に主の導きがあるように。
⑥神学院の必要が豊かに満たされるように。
⑦後援会役員、推進委員、世話人が尊く用いられるように。

目次

巻頭言 1
祈りの課題 1
BTC後援会費収支報告 2
世話人メッセージ 2
南日本ブロック世話人会 2
教師陣に、聞く 3
卒業生近況 3
卒業生近況（続き） 4
院長コラム 4
編集後記 4